



新婚さんを応援！
結婚活動支援の拡充を



小山 ようこ(創風)

問／結婚支援に関し、「ハートマッチにいがた」の入会登録料助成の実績は。

答／入会登録料の助成実績は、令和5年度は8月末時点で4件となっている。令和3年度は19件、令和4年度は15件の助成実績があった。

問／割引などのサービスが受けられるパスポートや施設の利用券等を、新婚や結婚予定のカップルを対象に発行すべきと考えるがどうか。

答／結婚支援へ有効な取り組みを検討しており、提案のパスポートや市施設利用券発行についても、有効性を確認・研究していく。

マンホールカードの取り組みへの参加を

問／マンホールカードについての市の認識は。

答／下水道に興味・関心を持ってもらうきっかけにするとともに、マンホールの先にある下水道の大切さをより深く理解してもらうことを目的に発行されているものと認識している。

問／当市もマンホールカードの取り組みに参加すべきと考えるがどうか。

答／下水道事業の普及・啓発に資する取り組みを、継続的に推進しているところであり、マンホールカードを発行することは考えてはない。市民に下水道事業の意義や大切さを広く伝える努力を重ねながら、公衆衛生の向上、公共用水域の水質保全に繋げていく。



住環境整備の停滞は
市街地人口流出の一因



渡邊 隆(久比岐野)

問／高田市街地の南北を結ぶ幹線である都市計画道路北城町・東城町線は、狹隘道路が多い住宅地を縦貫することで、高田城址公園周辺の小中学校生の安全な通学路整備に加え、未利用土地の宅地化に繋がることから、投資効果の高い計画路線であると考えるが、必要性を聞く。

答／本路線は南消防署付近と中央橋を通る県道との間、約660mが未着手となっている。南消防署から高田南部地域へ向かう緊急車両の速達性の向上や、高田城址公園のイベント開催時の円滑な交通確保に寄与し、補助幹線道路として重要な役割を担うものと認識している。しかしながら、未着手区間には既に住宅が多く立地し、移転補償に多額の費用を要することや、住宅地を斜めに分断するルートのため不整形地の発生等、地権者の合意形成が難しいと思考する。整備効果は高いが着手は難しいと考える。

たにはま公園ドッグランに植栽で木陰を

問／公的施設では県内最大規模であり、多くの愛犬家に親しまれている。これまで、休息するスペースとして植栽による木陰が欲しいとの要望が多く寄せられているが、充実する考えは。

答／同様の声が複数寄せられている。ペットと快適に過ごすための環境整備の必要性を認識し、木陰設置へ向け検討を行っている。



保倉川放水路整備に向けて



波多野 一夫(みらい)

問／第24回関川流域委員会が開催されたが、保倉川放水路整備に関する審議内容はどうか。

答／国から、令和5年度内を目標に計画の変更を進めていくことが示された。具体的には、目標流量を毎秒700tから900tに変更するとともに、住民へ平面図や横断面図を提示し理解を求めていくことであった。委員からは、流域治水の考え方や、放水路の塩水遡上による周辺への影響など、多くの意見が出された。

問／国、県、市の動きと、事業着手に向けた市の今後の進め方、地元まちづくり協議会との関係性についてどう考えているか。

答／現在、国土交通省では、保倉川放水路の事業化に向けて、環境調査や施設の概略検討等を進めており、その進捗に応じて、国、県、市が連携を図りながら、地域住民への説明や関係機関との調整を行っている。

市では、地域分断による影響の軽減に向けた道路ネットワークや、地元のコミュニティ施設建設などの検討を始めた。

また、地域の理解と協力が不可欠であるため、地域の課題解決に向けた「まちづくり協議会の準備会」の皆様と、今後も丁寧な話し合いを重ねながら、事業化に向け、積極的に取り組んでいく。